

令和4年度実施 協働事業

事業報告書

	事業名	パートナー	担当課	ページ
①	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	ひらつか着地型観光推進委員会	商業観光課	P1
②	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	認定 NPO 法人フードバンク湘南	環境政策課	P10
③	社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業	NPO 法人湘南 NPO サポートセンター	協働推進課	P19
④	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業	NPO 法人ぜんしん	農水産課農 農業委員会事務局	P30

令和4年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団体名	ひらつか着地型観光推進委員会
団体代表者	田中 純矢
事業担当課名	商業観光課
事業担当課長	仲手川 直

令和4年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		
事業開始年度	令和2年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	2,631,524 円	内 訳	市の支出 2,236,524 円
			団体の支出 395,000 円 等
事業の概要	地域の資源を活用して、地域主体、地域発信で行う新しい形の観光である着地型観光のプログラム開発と情報発信及び実施を行うことにより、平塚の新しいイメージやブランドを創り出していき、関係人口を増加させます。 3年目となる令和4年度は、平塚のさまざまな体験を扱うホスト（訪問先）とともに着地型観光プログラムを開発し、平塚を学び舎として親子体験を中心に行いました。		
具体的な実施内容	<p>プログラム数：15 参加人数：238人 市外参加者数：18人 新たな魅力を発見した人数：26人 スポンサー数：0</p> <p>① 7月22日（金）「4色のマジックを見に行こう」参加者13人（うち市外0人） ② 8月6日（土）「海で食べたいフルーツかき氷を作ってみる」参加者19人（うち市外0人） ③ 8月7日（日）「いかすで農業体験」参加者16人（うち市外2人） ④ 8月19日（金）「金属加工の工場で作るピザ窯ランチ」参加者15人（うち市外0人） ⑤ 8月20日（土）「自分のサイン 印章をつくろう」参加者7人（うち市外2人） ⑥ 8月27日（土）「さかなを長持ちさせる方法を体験しよう」参加者13人（うち市外1人） ⑦ 8月28日（日）「土からこねこねハイできた。子ども陶芸教室」参加者4人</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

	<p>(うち市外0人)</p> <p>㊸ 9月16日(金)「プロ選手とバスケ体験」参加者17人(うち市外7人)</p> <p>㊹ 12月27日(火)「平塚信用金庫バックヤードツアー」参加者13人(うち市外0人)</p> <p>㊺ 1月22日(日)「テレビラジオのアナウンサーになろう」参加者8人(うち市外0人)</p> <p>㊻ 2月19日(日)「弦斎団子をつくって食育を楽しく学ぼう」参加者23人(うち市外0人)</p> <p>㊼ 3月12日(日)「平塚を彩る花火がどのようにあがるか現場潜入体験」参加者52人(うち市外3人)</p> <p>㊽ 3月18日(日)「前鳥神社で体験ツアー」参加者8人(うち市外0人)</p> <p>㊾ 3月21日(火)「おとうさん・おかあさんと秘密基地を作ろう」参加者16人(うち市外3人)</p> <p>㊿ 3月27日(月)「神奈川県動物愛護センターについて学ぼう」参加者14人(うち市外0人)</p> <p>【コロナ拡大等の為計画していたが開催不可になったプログラム】</p> <p>4月 たけのこを探そう</p> <p>6月 競輪選手の試合前を見に行こう</p> <p>9月 お父さんお母さんと秘密基地を作ろう</p> <p>10月 しまむらストアーバックヤード見学</p> <p>12月 平塚八幡宮巫女体験</p> <p>2月 JA農協青果センター見学ツアー</p> <p>2月 「ポカポカシュワシュワバスボム作り体験」</p> <p>2月 レモンガススタジアムバックヤードツアー</p>
--	--

※ 事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和4年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収入	市の支出	2,698,764	2,236,524	-462,240	減額の大きな理由として、下記の通り人件費、交通費、広告費の減額によります。
	団体の支出	0	0	0	
	事業収入	1,500,000	395,000	-1,105,000	プログラムの内容により、3000円以下の料金のプログラムがあったこと、開催場所の収容人数等により参加人数が少人数となったことなどため、当初の想定より減額の収入となりました。
	収入合計	A 4,198,764	B 2,631,524	B-A -1,567,240	
② 支出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	人件費	1,603,164 (1,428,164)	1,235,422 (1,179,898)	-367,742	別紙、「人件費明細書」参照。
	交通費	110,000 (110,000)	19,200 (19,200)	-90,800	イベント開催時及び事前打ち合わせの車利用が19回 自転車の駐輪料金支出が2回
	有償ボランティア	50,000 (50,000)	6,000 (6,000)	-44,000	延べ6名の有償ボランティアに支出しています。
	プログラム実施者謝礼	1,200,000 (0)	300,951 (0)	-899,049	事業収入の減額に伴い、プログラム実施謝礼も減額となります。 プログラム参加費(事業収入)の80%を謝礼としています。
	システム開発費	1,000,000 (1,000,000)	987,800 (987,800)	-12,200	新たなホームページの開設に伴う費用となります。
	システム保守費	45,600 (45,600)	34,320 (34,320)	-11,280	既存ホームページの年間使用料となります。 一括支払いにより、減額されたものです。
	通信費	95,000 (0)	0 (0)	-95,000	携帯電話レンタル料の取りやめ、対面での打合わせを増やし、費用のかからない情報共有アプリ等を活用しました。
	広告費	65,000 (65,000)	9,306 (9,306)	-55,694	夏休み実施のプログラムをまとめたチラシを作成。 減額の理由としましては、その他のプログラムについて、平塚市LINEアカウントの活用、これまでの参加者への個別周知等により集客が可能と参加費の事前決済による決済手数料及び資金管理口座への入金に伴う、振込手数料等になります。事前決済を原則としたため、想定より、増額となりました。
	事務費	30,000 (0)	38,525 (0)	8,525	
支出合計	C 4,198,764 (2,698,764)	D 2,631,524 (2,236,524)	D-C -1,567,240		
③	収支決算額 B 2,631,524 円 - D 2,631,524 円 = 0 円				【備考】

* 支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか着地型観光推進委員会	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

※評価点（5段階）の参考基準

（1）協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	新しい体験プログラムを加えて、合計9回プログラムを実施した。 うち6回は新規プログラムで、協働で平塚の魅力をともに発信、体験いただき、平塚への関係人口を増やし、平塚愛を育むという目的を共有することができた。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	イベントの企画、実施、運営などは、委員会でいい、公共施設の確保などの対応を市に行ってもらおうなどしてうまく分担できた。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面会議はほとんどできていないが、毎週オンライン定例会を行い、市役所の担当職員と共に新たな観光資源を開拓することができた。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	お互いに必要なことや不足している点を話しあいながら進め、お互いに尊重しながら、対等な立場で進められた。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	本活動を広く認知してもらおうという面で、市役所のHPやLINEなどで協力をいただき、認知の拡大ができた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	コロナ禍でできない取り組みはあったものの、目的と目標を達成できた。
② 事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	運営経費をいただくことで円滑な運営をすることができた。コロナ禍が継続したことで、予定通り実施できなかった部分はあるが、一回あたりの費用対効果は十分に高かった。
③ 事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	アンケート結果からおおむね高評価を受けることができた。 ※ アンケート結果を添付

(3) 実施したメリット

市民のメリット	主催者：新しい企画や新しい観光イベントの企画運営を発見できたり、周知できた。 参加者：新しい平塚の魅力を発見できた。
団体のメリット	市と連携することによって、団体だけで手に入れられない地域資源の発掘ができ、新しい平塚の観光プログラムを開発できた。
市のメリット	新しい取り組み、新しい事業者と会うことにより、協業できそうな人たちと会うことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後、平塚市観光協会を含めた他団体とどのような協力体制で活動をすすめられるか、模索する必要がある。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（平塚市観光協会と連携した事業実施）

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

交流会や勉強会を通して、新たな協力者を獲得しつつある。コロナの収束も見えてきた中、平塚市観光協会を含めた他団体とどのような協力体制で活動をすすめられるか、模索しながら事業を継続する。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	商業観光課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	4	ZOOMでのオンライン会議、ランチミーティングなどを行い、目的の共有を図った。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	それぞれの強みを生かした、役割分担を行うことができた。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	打ち合わせを頻繁に行い、LINEグループやSlackを活用して十分に協議ができた。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	対等な立場で意見交換をし、事業の実施を行うことができた。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	市単独ではできない観光プログラム企画、実施、受付システムを利用しクレジットカードやコンビニ決済などの活用ができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	コロナ禍の中で、国などの指針が変わっていく中で柔軟に対応しながら当初の目的・目標を意識して実施できた。
② 事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	ホームページの更新や受付、集金に事務、当日の対応等を考えると経費に見合うサービスは十分に得られた。
③ 事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※ 受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由などアンケート結果や参加者の聞き取り、また、プログラム実施者への聞き取りから満足度は高いと評価できる。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	これまでにない新しい観光プログラムに参加し、平塚の新たな魅力に気づくことができた。
団体の メリット	さまざまな活動を行っている会員同士がこの事業をとおして平塚の現状や課題を深く認識できた。観光プログラムの実施者と調整する中で、新しい事業を行うにあたっての留意事項などを理解することができた。
市の メリット	これまでにない観光プログラムを企画することができ、当日の運営など団体と協力して行うことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（平塚市観光協会、市で事業を引き継ぐ）

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	ひらつか着地型観光推進委員会	担当課名	商業観光課
事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

新型コロナウイルスの感染拡大後、オンラインで定例会を行うようにした。毎週の開催を通して、情報共有を密に目的を共有できた。市と団体のそれぞれ得意なことを生かして、単独では得られない効果を得られた。

(例: 団体の柔軟な発想での開発したプログラムを市のLINEで周知したことなど)

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

引き続きコロナ禍で、さまざまな配慮が必要であったが、工夫をしながら、新しい観光プログラムの開発もすることができた。

目標のプログラム25個の開催には達しなかったが、コロナ終息後に新たに関わっていただけそうなホストを発見することができ、今後の新規プログラムの開催に期待が持てる。

評価の流れ A：「自己」評価シート → **B：「相互」評価シート** → C：審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民のメリット：新しい平塚を発見することができた。プログラム実施者は、観光プログラムの企画運営を通して、自社の製品が平塚の魅力向上につながることを理解できた。
団体のメリット：メンバー自身のシビックプライドの育成につながっている。この事業を通して、市と連携でき、団体だけでは手に入れられなかった地域資源の発掘ができた。
市のメリット：新しい取り組みを通して、新たな事業者とつながりができた。また、市内外に新しい平塚の魅力を発信することができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

行政提案型協働事業の仕組みが活用できる来年度が終わった後、どのような体制で継続をしていくか検討をしていかなければならない。
また、新型コロナウイルスの感染状況を見極めて、来年度も事業を進めていく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
- 行政が単独で実施
- 休止または終了
- 団体が単独で実施
- その他 (平塚市観光協会と連携した事業実施)

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

交流会や勉強会を通して、新たな協力者を獲得しつつある。コロナの収束も見えてきた中、平塚市観光協会を含めた他団体とどのような体制で活動をすすめられるか、模索しながら事業を継続する。また、行政との連携体制は継続する。

令和4年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名 認定NPO法人フードバンク湘南

団体代表者 大関 めぐみ

事業担当課名 環境政策課

事業担当課長 鳥居 昌

令和4年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		
事業開始年度	令和2年度	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	5,158,883 円	内 訳	市の支出 4,258,604 円
			団体の支出等 900,279 円
事業の概要	<p>食品関連事業者で大量に同じ食品を在庫として所有している企業を対象に、その在庫食品を廃棄する際、フードロス削減目的としてフードバンク湘南に寄付していただくよう促していきます。本事業で開発をしたWEBアプリを活用することで、寄付をした法人には税制メリットが生まれます。廃棄していた食品を寄付に回すことで廃棄物削減による環境負荷の低減を目指す一方で、フードバンク利用者である生活困窮世帯に無償配布することで、相対的貧困の解消に寄与していきます。</p>		
具体的な実施内容	<p>基本活動 週3日 大関 岡田 久松 林 山田 小田中 検品登録 打合せ 営業訪問 営業電話 資料作成 引き取り配達業務 倉庫保管</p> <p>主な営業先・打ち合わせ先 4月 : ららぽーと湘南、伊藤忠食品、ヤオコー平塚店、リコー 5月 : 東海大学、ARROW平塚店、エスパティオ中原店 6月 : しまむらストア、小清水商会、平塚信用金庫 7月 : 不二家、横浜ゴム、日産車体 8月 : 明治安田生命、損保ジャパン、ラスカ平塚、進和学園 9月 : 桐光学園 10月 : レモンガス、中央物産 11月 : パルシステム、アール元気真土店、西友平塚店 12月 : サンフレッセ平塚工場、大雄、守山乳業 1月 : スーパー三和平塚店、コスモス四之宮店 2月 : アマヤ、湘南シーズン、岡崎電気工事、湘南シーズン 3月 : クリエイトSD真土店、西友平塚店</p>		

実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。

※ 事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和4年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
◎ 収 入	市の支出	4,258,604	4,258,604	0	
	団体の支出	0	94,987	94,987	
	事業収入	2,300,000	805,292	-1,494,708	SDGsパートナー企業17社
	収入合計	A 6,558,604	B 5,158,883	B - A -1,399,721	
◎ 支 出	人件費	5,071,334 (2,771,334)	3,597,360 (2,697,081)	-1,473,974	企業訪問が想定より減少 (新型コロナウイルス感染症の影響)
	交通費	522,000 (522,000)	411,000 (411,000)	-111,000	同上
	通信費	109,200 (109,200)	136,023 (136,023)	26,823	訪問減少の代替営業としてDMを多く発送
	広告宣伝費	60,000 (60,000)	108,100 (108,100)	48,100	チラシ作成費・協働事業ホームページ改修費
	外注費◎	160,270 (160,270)	184,800 (184,800)	24,530	販促物 (ステッカー) 作成費
	外注費◎	635,800 (635,800)	721,600 (721,600)	85,800	WEBシステムバージョンアップと使用感改善のため (スマートフォンなどでの操作も可能にした)
	支出合計	C 6,558,604 (4,258,604)	D 5,158,883 (4,258,604)	D - C -1,399,721	
◎	収支決算額 B 5,158,883 円 - D 5,158,883 円 = 0 円				【備考】

※ 支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	認定NPO法人フードバンク湘南	■ 団体 □ 行政
事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	特に最終年度である今年度は互いに垣根を越えて目標に近づけるため、各々ができる提案とその実施について多くの協力ができました。目的の共有がしっかりなされた結果だと考えています。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	これも同様に最終年度は分担にこだわり過ぎず、弱いところを先だってフォローするということができていました。一方に任せ過ぎず、事業の弱い部分は一緒にやるということも役割としてできていたと思います。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	成果の弱い部分については多くの協議を行い、舵を切り短期間で実施するなどの動きができた半面、成果の出ている目標については更なる充実を求めるような協議はできませんでした。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	最終年度は特に対等で協働しているという実感ができた年度でした。企業との繋がりを増やすという目標に向け、対等に互いにできること分担をしながら実施できました。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	最も力の入れた「企業との繋がり」という点において団体側からすると「平塚市」の存在は大きく、それによって信頼を得て結果に繋がったことは体感としてとても大きな割合を占めるのではないかと考えています。それ故に事業終了後の継続した企業との繋がり探しに不安があります。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	アプリの作成と運用は予定通り完成しました。相対的貧困の解消に向けた要支援者の数、食品の寄付量は団体の能力と、予定していた人件費をかけられる人数ではさばき切れないほどの成果ができました。一方で企業との繋がりとのチャンスは多くできて、また成果の出やすい手法も確立されてきていますが、目標に間に合わせることはできなかったです。
② 事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	この事業が「事業名」で成果をはかれば、団体の力をはるかに超えてしまった成果が出たことを考えると費用対効果は予想以上であると考えられます。恐らく同様の支援を企業や公共団体が同額でできることはないと考えます。ただもう一つの目標である事業後の独立した継続に関しては厳しい結果となりました。
③ 事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※ 受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 長期的な受益者として市民を対象とすると、支援できる食品の確保、支援を受けられる要支援者の数が激増しているので評価は高いと考えます。しかし短期的受益者として当団体を対象とすると事業の継続性において評価が低くなるかと思えます。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	1 世帯あたりに配られる食品の量も増え、新規要支援者も問題なく受け入れられる体制ができてきました。
団体のメリット	活動に充てる資金が本事業を通じて企業から得ることができました。今後繋がりを維持していける可能性が高いと考えます。また企業との繋がりを求める際のノウハウが蓄積しており今後も成果を求めていくことができます。
市のメリット	市内にフードバンクが存在しているというメリットがあります。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後、平塚市はこの食品ロスからの食糧支援についてどのように考え、窓口が存在するのかどうか、協働で事業をした我々にもわからない状況です。せっかくできた市側のノウハウも恐らく、なんとなく消えていくのだろうと感じており残念に思います。我々は活動を続けていきますが、平塚市はどうするのか、そういったことも必要なのではと思います。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
- 行政が単独で実施
- その他 (休止または終了 団体が単独で実施)

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

自主財源の確保が今回残された団体側の課題であるが、既に団体として考え活動を進めています。一方で今回のパートナー、平塚市としてどのようにこの活動を続けサポートしていくのか示されていないのは非常に残念です。団体としては今後も要支援者のサポートや食品の確保など互いの強みを活かして共に継続していけたらと願っています。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚市環境政策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	標記事業の目的を共有し、双方協力して取組を行いました。 協賛企業を増やすため合同で企業訪問するなど、事業の趣旨を理解いただけるよう話し合い、共有しました。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	最終年度は目標を達成するため、当初の役割分担に固執せず、さらに協力、連携を深めて取組を行いました。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	随時報告、協議し、方向性の確認等を行いました。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	互いの立場を尊重しつつも、成果を出すために取組を強化しました。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	事業開始前と比較して、フードバンク湘南への寄付量、寄付金（協賛金）が増えていることは、大きな成果だと考えています。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	フードバンク湘南への寄付量が増加してきていることは、廃棄物の減少にも貢献しているものと捉えています。認知度向上からフードバンク湘南への寄付金も増え、本事業の目的・目標はある程度達成できたものと考えています。
② 事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	本事業開始以来、フードバンク湘南への食品の寄付量（廃棄物削減量）は増え続けています。協働事業3年間で多くの企業に啓発、周知したことを考慮すると費用対効果は得られたと捉えています。
③ 事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※ 受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など前年度までと比較して、協働事業への協賛企業（SDGs パートナー企業）が大きく増えました。フードバンク湘南及び食品ロス削減への理解が進んだことによるものだと考えています。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く市民に対する食品ロス削減取り組みへの意識改善や啓発効果 ・ 食の支援を必要とする生活困窮世帯にとっては、フードバンクの存在と活動が認知される機会となる
団体の メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な未使用食品の確保への期待 ・ 市との協働であることによる信頼感の獲得 ・ 食品寄付、寄付金の増加
市の メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の削減への普及啓発と効果 ・ 生活困窮世帯への支援の拡充

(4) その他、課題やその改善方法など

当初の事業スキームから離れたところもありましたが、審査員や協力団体に意見をいただきながら軌道修正を行ってきました。最終的には食品関連事業者だけに拘らず、フードバンク湘南の活動やSDGsの理念に協賛いただける企業を増やしていったことで事業収入が増えていきました。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業は終了となりますが、市が食品ロス削減について事業者に指導や助言を行う際には、フードバンク湘南への寄付について引き続き促していきます。また、市民への団体紹介も引き続き行います。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	認定NPO法人フードバンク湘南	担当課名	環境政策課
事 業 名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事業開始からの2年間は食品関連事業者への訴求を中心としていましたが、思うような成果が上がりなかったことから、協議のうえ幅広い職種に営業をし、協賛企業を増やしていきました。当初スキームとは異なり直接的な食品ロス削減効果が見えにくくなるものの、食品ロスを寄付に転換する団体の取組や理念に理解、協賛いただくことで間接的に食品ロス削減にも繋がるものと考えています。周知効果を高めるためチラシを作製したほか、協賛企業にはステッカーを進呈しています。チラシは団体が選定した企業約1000社に送付したほか、「平塚市ごみ減量化・資源化協力店」約110店に送付しました。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

最終年度は特に目的意識の共有やアプローチが進み、連携を深めた取組を行うことができました。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民・団体・市いずれにもメリットがあったものと双方認識していることを改めて確認しました。市単独では行き届かない啓発等が団体により行われたことや、団体単独では得られなかった企業との繋がりができたこと、それにより市民への支援が増えたことから協働事業を行ったメリットがありました。

令和4年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

(特定非営利活動法人)

団 体 名	湘南NPOサポートセンター
-------	---------------

団体代表者	坂田美保子
-------	-------

事業担当課名	協働推進課
--------	-------

事業担当課長	石井雅之
--------	------

令和4年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」		
事業開始年度	令和3年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	2,760,300 円	内 訳	市の支出 2,758,800 円
			団体の支出等 1,500 円
事業の概要	<p>平塚市との協働で実施している「ひらつか地域づくり市民大学」は、平成25年より9年間実施してきたが、多くの地域で各種団体役員の高齢化、担い手不足が大きな課題となっていることが明らかになっていた。</p> <p>加えて、新型コロナウイルス感染防止対策の影響により、様々な地域活動、地域行事が自粛、中止となり、その開催内容や方法についても見直していくきっかけとなった。</p> <p>本事業では、本格少子高齢社会のなかでの暮らし方・働き方を踏まえ、地域活動を行う上で参考となるような事例や新しいやり方の試行経過をまとめることで、次世代へ継承していける持続可能な地域活動の仕組みづくり支援を目的とする。</p> <p>令和3年度は、自治会と通じた地域活動の実態把握のアンケート（自治会アンケート）、行政関係部局内部や有識者へのヒアリングを通じ、問題点と課題解決検討のポイントを整理することを行った。</p> <p>令和4年度は、前年度の自治会アンケート結果に関する地域側での詳細説明ニーズが高かったことを踏まえ、当初の事業内容を一部変更し、アンケート結果をもとに今後の検討に取り組もうとしている地区との意見交換、新しい検討プロセスの試行に取り組む地区（モデル地区）や地域一体となった実践事例を整理し、地域活動の仕組みづくりのヒントになるノート・事例集の骨子案を作成した。</p>		

具体的な
実施内容

実施年月日、実施
内容、参加者等
をご記入ください。

- (1) 1年目のアンケート結果を踏まえた自治会意見交換会の実施
- ・対象：自治会アンケート結果に関心を持ち、今後の地域活動検討の参考にしてほしいと申し入れがあった自治会
 - ・内容：アンケート結果詳細説明、人口・世帯野見通し、今後の検討課題等の説明と意見交換
 - ・実施：平自連総会での説明会 5/7 参加者 120名
伊勢山地区 6/26 地元参加者 35名
松原地区 10/15 地元参加者 35名
崇善地区 12/3 地元参加者 20名
港地区 2/4 地元参加者 35名
- (2) モデル地区での新たな仕組み検討の試行
- ◎ 横内地区
- ・新しい地域活動・地域づくりの取り組みの検討に向けた課題確認と試行に向け、自治会ならびに「まちづくりを考える会」とワークショップ実施
ワークショップ (WS) 7月～3月 6回 参加者延べ 80人
 - ・意見収集の試行として、「暮らしと地域活動に関するアンケート」実施
対象：隣組長世帯ならびに各種団体役員世帯の中学生以上全員
12月配布 1月回収 472票 (回収率 29.5%) 2月集計
3/22のWS 3/26の各種団体反省会にて報告
- ◎ LaLa 湘南平塚コモンズ自治会
- ・新住民が多い地区の中で、“わがまち”を感じて連帯していくきっかけ・場づくりに向け、ワークショップ実施
ワークショップ 7月～1月 5回 参加者延べ 60人
 - ・意見収集の試行として、「シールアンケート・インタビュー」実施
対象：防災&ミニレクイベント (LaLa 湘南平塚コモンズ自治会主催)
11/27実施 参加者200人 (6割大人、4割子ども)
アンケート回答者大人 120人のうち 55人 (ほぼ半数が回答)
- (3) 「地域活動の仕組みづくりノート (仮称)」の骨子案作成
- ・上記 (1)、(2) ならびにこれまでの「ひらつか地域づくり市民大学」でのテキスト、事例を参考に、「地域活動の仕組みづくりノート (仮称)」として骨子案を作成した。
 - * 「地域活動の仕組みづくりノート (仮称)」
 - これからの地域活動を考えるプロセスとポイントを整理
 - * 「ヒント事例集」
 - 上記ノートに関連して参考となる 10 事例を整理
 - * 「データ集」
 - 上記ノートに関連する社会情勢変化や法制度等のデータを整理
- (4) 7地域区分 (都市マスタープラン区分) 自治会アンケート整理
- ・地域活動の仕組みについては地域・まちづくり全般とのかかわりが重要であるとの再認識のもと、今後の平塚市の地域・まちづくりのベースとなる都市マスタープランや立地適正化計画との整合性を加味して前年度実施した自治会アンケートの再整理を行った
- * 市関係各課との情報共有含め、100部印刷

※ 事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和4年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
◎ 収入	市の支出	2,758,800	2,758,800	0	
	団体の支出	54,000	1,500	-52,500	モデル地区、報告会等へのお茶は各自負担 モデル地区ヒヤリング (ステップチェンジ: 世田谷) 手土産代1,500
	事業収入				
	収入合計	A 2,812,800	B 2,760,300	B-A -52,500	
◎ 支出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	謝金 (有識者)	45,000 (45,000)	45,000 (45,000)	0	ワークショップ企画、報告会、事例集アドバイス 15,000*3人回=45,000
	賃金	2,568,000 (2,568,000)	2,218,375 (2,218,375)	-349,625	全体企画・進行管理4H@12日@1人@2,000=96,000 (1)1年目のアンケート結果を踏まえた自治会意見交換会の実施 説明会に向けたR3アンケート結果詳細分析 4H@10日@2人@1,500=120,000 連合自治会説明会(準備+当日運営) 4H@10日@1人@5地区×1,500=200,000 4H@2人@5地区@1,500=60,000 (2)モデル地区取組み試行に向けたワークショップの実施 WS事前準備 3H@11日@5人@2地区@1,500=495,000 WS当日の運営 2H@11日@5人@2地区@1,500=330,000 モデル地区アンケート調査分析 3H@7日@3人@1,500=94,500 (3)地域活動の仕組みづくりノート(仮称)の骨子案作成 モデル地区及び他事例調査研究 3H@4日@4人@1,500=72,000 骨子案作成 4H@14日@5人@1,500=420,000 4. 2H@4日@1人@1,500=25,375 (4)7地区区分(都市マスタープラン区分)アンケート整理・発行作業 4H@10日@2人@1,500=120,000、11H@1人@1,500=16,500 (5)会計事務 5H@11か月@1,500=82,500 4H@11か月@1,500=66,000 7H@2ヵ月@1,500=21000
	アンケート入力協力費	0 (0)	300,000 (300,000)		モデル地区全住民アンケート入力協力(東海大学梶田研究室)
	印刷費	73,800 (73,800)	106,970 (106,970)	33,170	モデル地区アンケート印刷25,840、封筒印刷7,580 7地区別アンケート報告書73,550
	旅費・交通費	72,000 (72,000)	54,145 (54,145)	-17,855	モデル地区WS、自治会アンケート説明会のバス代等
	会議費・消耗品費	0 (0)	32,030 (32,030)	32,030	モデル地区打合せコピー代・事例集打合せコピー代等 17,220 インク代6,416、コピー用紙4,281、付箋、模造紙等4,113
	接待交際費	0 (0)	1,500 (0)	1,500	モデル地区ヒヤリング(ステップチェンジ: 世田谷) 手土産代1500円
	支払手数料	0 (0)	2,280 (2,280)	2,280	謝金、賃金支払手数料
	支出合計	C 2,758,800 (2,758,800)	D 2,760,300 (2,758,800)	D-C 1,500	
	◎ 収支決算額	B 2,760,300 円 - D 2,760,300 円 = 0 円			【備考】

※支出額の()内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	(特定非営利活動法人) 湘南NPOサポートセンター	■ 団体 □ 行政
事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	アフターコロナを意識して、市内各地での地域行事再開や見直しははじまりつつあり、ゴミ問題、子供や高齢者の居場所問題等、地域活動、運営の仕方について改めて考えていこうとする機運が高まり、市への相談・問合せ等も増えつつあり、本事業の目的や必要性の共有化がさらに進んだと思われる。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	令和3年度実施した自治会アンケート結果を地域内で共有する意見交換会を開催してほしいとの申し出があった自治会との調整を市が担ったことは、今後の連携関係をつくっていくうえで効果的だったと認識している。 また、モデル地区での住民アンケート（横内地区）、イベント参加者簡易アンケート（Lala 湘南 commons 地区）でのバックアップも協力的にできた。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	本年成果の一つである「地域活動の仕組みづくりノート（仮称）骨子の作成にあたっては、ターゲットをどのような層をイメージするか、市の関わり方をどこまで記述するかについては、協議を重ねたが、次年度も引き続き詰めていく課題となった。 事例集としては市民の実感を引き出しやすいよう、地域づくり市民大学での市内先進事例を紹介していくことやデータ集として地域活動関連制度の概要をデータ集に整理していく等、利用のされ方を協議しながら進めていった。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	地域活動の所管する担当課と市民目線との立ち位置の違いはやむを得ないところであるが、これからの地域運営に大きくかわるテーマとしての重要性の認識は共有しているので、実効性ある成果（地域づくりノート）」になるよう努めた。

⑥ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	意見交換会やモデル地区ワークショップにおいて出てきた課題や意見については地域側と行政側で連携・協働して取り組むべきポイントを共有し、これからの改善点の意見交換もできたことは一歩進んだ点と認識している。
--------------------------------------	---	--

評価の流れ **A:「自己」評価シート** → B:「相互」評価シート → C: 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	当初、モデル地区を対象に具体的に新たな取り組みを試行することを企画していたが、行事や活動だけを拙速に変えていくのではなく、R3 年度自治会アンケートを参考にしつつ、地域にとっての課題共有から取り組みにつなげるプロセスを整える提案の仕方に替えたことは、実効性ある最終果に結び付けることができている。その中で、地域住民の声を聞く方法を各モデル地区で試行し、その結果を地域側で活かしてもらえるようにまとめたことは次年度の具体的な取り組みへ結びつくと考えられる。
② 事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	モデル地区の団体役員以外の幅広い世代(横内地区)や新住民が多い中(Lala 湘南コモンズ地区)での生の声を把握できたことは、原点に立ち戻り、地域活動の意義と取り組むべきテーマを探る貴重な成果といえる。また、都市マスタープランの地域区分に対応して自治会アンケートを再整理した取りまとめを行ったことで、市(まちづくり政策課)が取り組む立地適正化計画のようなまちづくり政策への活用にも活かしていただけると認識している。
③ 事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※ 受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など自治会アンケート結果を“わがこと”として4 地区関係者が自発的に意見交換会を企画したことは、今後市各地の地域活動再検討の機運につながっていくと理解している。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	従来踏襲型の活動を見直しの必要性、重要性を地域活動団体役員以外の幅広い市民と共有していくきっかけとなり、“わがこと”として楽しく参画してもらえる機会や場づくりができることを感じてもらえるようになったのではないかと考える。
団体のメリット	運営を委託されている「市民活動センター」での相談対応や地域魅力発信、「地域づくり市民大学」での講座内容等、地域課題やニーズをよりの確に反映した取り組みに活かしていけると思われる。
市のメリット	日頃関わりがある団体役員や苦情・要望を申し入れる市民のほかに、前向きに考えている声に耳を傾ける等、現行の規程や制度の運用や時代にあった基準を検討していくきっかけとなったと思われる。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	協働推進課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	事業開始以降、地域活動の在り方について改めて考えていこうとする機運がさらに高まり、独自で活動の見直しの検討やアンケート調査を実施する自治会が見られるなど本事業の目的や必要性の共有化がさらに進んだと思われる。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	令和3年度に実施した自治会アンケートの報告会について希望する自治会との調整を市が率先して行った他、モデル地区でのワークショップ等の調整も市が中心となっで行い、一方、当日の運営や進行等は団体が中心となっで行うなど、明解な役割分担ができた。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	アンケート報告会やワークショップ等の前には事前打ち合わせを入念に行い、実施後はそれらを今後どう展開していくかを互いに共有するなど、十分に協議ができた。地域活動の仕組みづくりノート（仮称）の作成については、協議を重ねたものの、次年度も引き続き検討していく課題となった。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	対等な立場であるということを念頭に置き、活発に意見交換するとともに、一方に任せきりになることなく、連携しながら事業を進めることができた。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	自治会との調整については、自治会長との信頼関係のある市が行い、アンケート報告会やワークショップ等については、団体がこれまでの経験やノウハウを活かして行うことで、スムーズに事業を進めることができた。また、市職員が団体の経験やスキルを学ぶ機会を得ることができた。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	令和4年度は、モデル地区を対象にしたワークショップや具体的に新たな取り組みを試行することを企画していたが、令和3年度に実施した自治会アンケートの反響が大きく、アンケートの報告会を希望する地区が多く、4地区で報告会を実施した。当初の目的・目標から変わってしまったものの、今後、地域全体で地域活動の在り方を考えていくきっかけを与えることができたという点においては、達成できたと言える。
② 事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	これまでこうした取組に消極的だった地域をアンケート報告会の実施により一歩動かすことができたこと、また、モデル地区において自治会役員以外の生の声を聞くことができたという点においてある程度効果はあったと言える。
③ 事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※ 受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 自治会アンケート報告会を4地区で実施したが、各地区が自分の地域が今後どうなっていくのをデータで客観的に知ることができたこと、それに対し、どうすべきかを知ることができたことは、受益者にとって十分満足いくものであると考える。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	モデル地区でのワークショップでは、市や団体のサポートにより、活動の見直しや地域事業を地域だけではできない形で進めることができた。アンケート報告会では、自分の地域の状況や今後について詳細なデータで知ることができ、今後、地域をどうすべきか専門家の意見を聞くことができた。
団体の メリット	アンケートの報告会やワークショップを実施することで、知名度や信用度が上がり、団体としての今後の取り組みにプラスになる。
市の メリット	ワークショップ等で地域の声を聞く機会を得られたほか、アンケートの報告会の実施により、これまで消極的だった地域を一歩動かすことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

地域の課題や取り巻く状況は地域によって異なるため、成果品となる令和5年度作成の事例集については、多くの地域にとって参考になるものに仕上げる必要があり、また、文字やデータ中心のものと手に取ってもらえない可能性があることから、団体としっかり協議した上で、作り上げていく必要がある。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
- 行政が単独で実施
- 団体が単独で実施
- 休止または終了
- その他 ()

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

同事業とは別に、独自で自治会活動の在り方の検討やアンケート調査を行っている自治会が見られたり、他の参考になる先進的な取組を行っている自治会もあることから、そのような自治会との連携も検討する必要がある。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	(特定非営利活動法人) 湘南NPOサポートセンター	担当課名	協働推進課
事 業 名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

令和3年度事業では、自治会役員を対象を絞って問題・課題を整理していこうと協議・確認し、本年度はさらに地域活動団体役員や役員でない一般市民の声も把握しながら、幅広く仕組みづくりに関わる課題と取り組みの方向について協議した。

その中で、当初計画にはなかったが、問題意識の高い地区において補足的な説明、今後の具体的検討への動機づけとなる意見交換会を開催したことは、来年度の成果取りまとめ（「地域活動の仕組みづくりノート」）のターゲットをどのあたりに置くかの共有化につながったと考える。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

コロナ禍で活動自粛が続く中では試行的な活動も限られるとの判断から、モデル地区では活動や行事といったやること（手段）を拙速に施行するのではなく、何のために（目標・目的）どんな取り組みをすることが重要なのかを丁寧にきく（幅広い世代の生の声）ことが重要と確認・共有した。その結果、地域側の負担感を配慮し、他地区でも実施しやすいアンケートやインタビュー方式を工夫する協議ができ、地域側との合意も得て進めていくことができた。

ただし、役員選出や活動団体運営といった課題にまで入り込んでいくかは、市側の所掌・担当する制度や運用基準等との絡みで、引き続き協議していくことが必要であると確認した。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

令和3年度の自治会アンケートについては、時間とともに地域側での反応も大きく、引き続き各自治体、市、団体（NPO）でフォローしていくことが重要であると確認した。

また、本事業の成果となる「地域活動の仕組みづくりノート」については、市民の意見を聴きながら、対象とするターゲット、わかりやすさ等の工夫をしていくことを確認・共有した。

団体（NPO）においては、創立10年を経過し、次の10年に向け、幅広い信用度が上がるほか、今後、共創社会づくりのリーディングサポーターをめざしていく目標設定ができた。

市においては、今後の「共創・協働型の地域運営」のモデルとして活かしていくことができる。

(4) その他、課題やその改善方法など

令和5年度は、モデル地区を中心により具体的に試行的取り組みに関わっていくこととなるため、事前に市と団体、地域との調整を丁寧に進めていく必要がある。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
- 行政が単独で実施
- その他（ 休止または終了 団体が単独で実施）

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

アンケート結果から読み取れるように、これからはゴミ問題、防災問題等がより深刻化して行くことが予想される。長期的視点に立って、モラルや社会性を身につけていくことや人のつながりを大切にしていくことが地域・まちづくりや地域運営の原点と考える。

そのため、本事業の成果を素材にしつつ、地域、学校、市民団体、行政等が一同が会し、新しい仕組みを使った地域活動を推進するシンポジウムや継続的なセミナーを企画・実施していくことを見据えていく。

令和 4 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長 殿

団 体 名 特定非営利活動法人ぜんしん

団体代表者 柳川 涼司

事業担当課名 ・平塚市農業委員会事務局
・産業振興部農水産課

事業担当課長 西山 靖朗 / 下田 宏

令和 4 年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創出に向けて～		
事業開始年度	令和 4 年	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	1,561,550 円	内 訳	市の支出 1,547,580 円 団体の支出等 13,970 円
事業の概要	<p>当団体は過去 6 年に渡り、平塚市と不登校・ひきこもりに悩む親子へ先ず、家から外へ出て、きっかけを得る為の居場所を提供して来た。次いで、居場所で元気になれた若者が同市・中央図書館に出向き、本の修繕等のボランティア体験を行うことで就労に向けて自信を培うまでに至ったが、未だ就労に結びつかない若者が存在している。その為、より実践的な職業体験の場を設け、彼らが就労に繋がる機会を提供する必要があると考えた。</p> <p>本事業では、働きたい意思を持ちながら働きづらさを抱える若者が、稲作の受託組織である湘南ライスセンター等にて農作業体験に参加する。彼らの自立を促す社会参加の場を確保するとともに、スマート農業を導入し、デジタル化を推し進めている湘南ライスセンターで、適性に応じて就農を支援しながら、同所の通年営業の可能性を検証していくことを目的とする。それにより、若者の自立や県内トップの米どころの維持等を目指していく。</p>		
具体的な実施内容	<p>初年度は、若者と農家の方々との信頼関係づくりを大切にしながら若者の自立を含め、スマートライスセンターの通年営業モデルの構築に向けた実証を進めるため、以下の事業を実施した。</p> <p>◎ 4 月～3 月 湘南ライスセンターで農家(各農家)の方と初回ヒアリング等の実施[4/18(月)]、体験者を募るべく「事前説明会」の開催[4/28(木)]、体験作業内容の打合せ・就農希望者の受入れに向けた話し合い[～3/22(水)]、団体会議等の開催(23 回)</p> <p>◎ 7 月～3 月 業務改善等に向けたミーティング... 若者の適性に応じた業務 提案の為に、湘南ライスセンターにおけるスマート農業を活用</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

<p style="text-align: center;">具体的な 実施内容</p> <p>実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。</p>	<p>した業務内容等を検討する。湘南ライスセンターの方々から依頼を受けた事柄について体験者の若者たちを含め、協議を重ねた[7/3(日)、10/12(水)、11/2(水)、3/10(金)](4回)</p> <p>◎ 4月～3月 配布資料・打合せ・アンケート分析等の書類作成に加え、体験時にカメラ撮影した大量の画像を自立に向けたミーティングや農家の方々との打合せ時に活用する為の編集作業(46回)</p> <p>◎ 5月～2月 農作業の体験... 播種、ハウス移動、外出し、水まき、選別、袋縛り等の作業を湘南ライスセンターほかで体験する(18回)</p> <p>【春の体験者数：延べ50名 / 活動日数：6日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/5(木) 9名 播種(苗づくり) ・ 5/8(日) 7名 ハウス移動(苗をビニールハウスに移す) ・ 5/10(火) 7名 播種 ・ 5/17(火) 9名 外出し(苗をビニールハウスから外へ移動) ・ 5/22(日) 6名 午前:ハウス移動と外出し、午後:外出しほか <p>※ 5/26(木) 7名 代替イベント・前半作業の振り返りミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/7(火) 5名 田植え体験/無人田植え機見学@城島地区学習田 <p>【秋の体験者数：延べ31名 / 活動日数：6日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/30(金) 6名 袋詰め・縛り・移動 275袋、色彩選別 62袋 ・ 10/3(月) 7名 袋詰め・縛り・移動 294袋、色彩選別 37袋 ・ 10/8(土) 6名 袋詰め・縛り・移動 146袋、色彩選別 28袋 ・ 10/9(日) 5名 袋詰め・縛り・移動 152袋、色彩選別 60袋 ・ 10/10(月・祝) 5名 袋詰め・縛り・移動 247袋、色彩選別 60袋 ・ 10/13(木) 2名 午前：掃除など、午後：デジタルサポート <p>【冬季の試験実施における体験者数：延べ12名 / 活動日数：6日】</p> <p>※ 試験的な取り組みとして、湘南ライスセンターでの農作業体験を終え、農業での就業意欲が高い若者たちが、自立に向かう為のステップとして、新たに体験を受け入れてくださった農家(市内)の方のもとで農作業を体験した。具体的にきゅうり他の栽培手法等を学ぶことで、就農に向けたスキルの習得を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023/1/30(月) 苗植え、ポット(黒色と白色)の回収 ・ 2/9(水) ぶどう畑で防風林の伐採 ・ 2/13(月) きゅうり栽培/クリップ止め、トマト栽培/結束バンドほか ・ 2/20(月) トマト栽培/クリップ止め、ナス栽培/パイプ等の撤去 ・ 2/27(月) きゅうり栽培/最下段の葉の除去、ビニール紐掛けほか ・ 2/28(火) きゅうり栽培/黄色いビニール紐掛け、固定ほか <p>◎ ・I 12月～3月 遊休農地等へ出向き、農家の方々と草刈りを実施(0回)</p> <p>※ 当計画については、上述の試験実施体験に変更することが事業の目的を達成することに繋がると考え、変更した。</p> <p>◎ ・II 5月～3月 体験等を踏まえ、デジタルサポート、または、湘南ライスセンターの通年営業に向けた試験的な提案... パソコンを活用した事務作業のお手伝い等について試験的な提案として、以下のサポートを行った(提案：3回)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)パソコンが起動しないトラブルに対応 (2)パソコンに届いているが確認できない状況にあった行政
--	--

機関等からの「メール内容」の読み出しと印字等

(3)湘南ライスセンターの「出勤簿」のデジタル化

- ◎ 11月～3月 実証してきた提案のまとめに向けて、若者と農家の方々を交えた話し合いの場・振り返り[11/21(月)、3/27(月)](2回)
体験後に参加者・当団体スタッフ・湘南ライスセンター・市職員で振り返りミーティングを開催し、提案内容等について話し合った。

☆ 体験後、自立に向かった若者は、4名となっている[就労3名、進学1名]

※ 事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和 4 年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
◎ 収 入	市の支出	1,547,580	1,547,580	0	
	団体の支出	20,000	13,970	-6,030	団体の正会員費等から充当
	事業収入	0	0	0	参加費は徴収しない
	収入合計	A 1,567,580	B 1,561,550	B - A -6,030	
◎ 支 出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	実証・検証報酬 (責任者)	517,500 (517,500)	637,500 (637,500)	120,000	※ 別紙、「人件費明細書」参照 増額理由：秋期以降も試験的な農業体験等を実施した為
	実証・検証報酬 (団体スタッフ)	493,500 (493,500)	490,475 (490,475)	-3,025	※ 別紙、「人件費明細書」参照
	事務用品費	132,800 (112,800)	123,088 (109,118)	-9,712	ノートパソコン：93,500円、プリンター用インク代：17,341円、 クリアホルダー・コピー用紙・コロナ対策グッズほか：12,247円
	消耗品費	117,200 (117,200)	107,710 (107,710)	-9,490	PC周辺機器：50,942円(officeやウイルスソフトほか)、農作業用品：38,489円(ほか ※ 減額理由：農作業用品の購入点数を抑えることが出来た為
	旅費交通費	133,760 (133,760)	48,620 (48,620)	-85,140	690円×2×11回(つきみ野⇄大島)、660円×2×11回(つきみ野⇄平塚)ほか ※ 減額理由：想定スタッフが変更となった為
	印刷製本費	38,000 (38,000)	40,067 (40,067)	2,067	パンフレットデザイン費：22,000円、パンフレット(A4・カラー両面・1,000 枚)・ポスター(A1・カラー)作成：[春期]7,265円と[秋期]7,415円、ほか
	通信運搬費	18,000 (18,000)	18,920 (18,920)	920	パンフレット郵送費 春期：レターバックライト:370円×32枚=11,840 円、 秋期：郵送費210円×29枚+250円×1枚+370円(レターバックライト)×2枚=7,080
	保険料	116,820 (116,820)	95,170 (95,170)	-21,650	体験者およびスタッフの傷害保険料 春期：2,290円×17人=38,930円、 秋期：900円×13人+1,340円×17名=34,480円、冬季(4人)：13,660円(ほか)
支出合計	C 1,567,580 (1,547,580)	D 1,561,550 (1,547,580)	D - C -6,030		
◎	収支決算額	B 1,561,550 円	- D 1,561,550 円	= 0 円	【備考】

※ 支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人ぜんしん	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創出に向けて～	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校やひきこもりに悩む当事者の特性等を踏まえながら農業体験を通して彼らが自信を培い、社会復帰への意欲を高め、就農(自立)を促すという目的を見失わずに事業を実施できた。また、丁寧に情報を共有しながら、事業を展開することが出来た。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	当初、掲げた計画通り、団体と市による適正な役割分担のもとに事業は実施された。 「寄り添いスタッフ」を提供し、また、体験者の「メンタルケア」も事前事後時に実施できた。 更にデジタルサポートの実施とライスセンターへの業務改善の一助となる「出勤簿」のデジタル化にも貢献できた。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	事業の準備段階からメール等で団体スタッフと市担当職員様との間で作業内容・実施報告等を双方で確認した上で事業に臨むことが出来た。農業体験等の実施後も状況を見ながら、双方で振り返りの時間を設け、今後の事業展開で要する改善点等の情報共有を図ることが出来た。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と市は、互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。 成果や問題点等については、事業後の話合いや「作業報告書」等を作成し、情報共有を図りながら、互いが対等な立場で、解決策を考え、事業に反映することが出来た。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体単独では本事業の成立は困難を極めたと思われるが、協働事業として事業を実施できたことにより、農家様ら関係各位と円滑なコミュニケーションが図れた。更に市の職員から農業情勢の指導等を受けることが可能になった。参加者が安心して参加できる等の効果が得られている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	目標としていた参加人数や体験回数も大きく上回り、「成果目標値」は、多くの項目で達成することが出来た。「遊休農地等へ出向き、農家の方々と草刈り」は実施せず、代わりに試験的な農業体験を開催した。体験者が就農に向かい、ステップアップする場を設けられたことは特筆に値する
② 事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	農家様から「人手があって助かる」等のご意見も頂いた。また、初年度は、体験を通して自立に至った若者たちが、4名も現れた[就労3名、進学1名]。更に現在、2名の若者が就農に向けて試験的な農業体験として雇用トライアルを続けており、費用対効果は、得られたと考えている。
③ 事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※ 受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 農家様から「真面目によくやってくれている」等のお話もあり、若者たちは頼りになる労働力として評価されている。また、体験者のアンケート結果による<満足度(10段階申告)>は、平均値で8.5点と判明した為、評価を頂けたと受け止めている

(3) 実施したメリット

市民の メリット	・若者は、自立に向け、より実践的な体験ができ、就労も可能になった ・農家、若者ともに、新たな労働力、雇用の創出につながられた など
団体の メリット	・事業実施に要する「職業体験」の場を確保できた ・数多くの職業人と接する為、会話や対人訓練等の場を得られた など
市の メリット	・農業の課題として「不足する労働力」を補うことができた ・市内の相談機関等を訪ねても解決策を得られない当事者に対し、自立に向けて希望を与えることができた など

(4) その他、課題やその改善方法など

<p>今後も農業体験等を実施するにあたって以下の対応策を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 当事者への助言がしっかりとできるように農作業体験等の作業内容の理解を更に深める ② 当該事業を支えるスタッフの増員と育成。 ③ 協働事業終了後も本事業を継続する為の資金等。
--

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外） 休止または終了
- 行政が単独で実施 団体が単独で実施
- その他（ ）

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、農家様らと築き上げた関係性を更に強化しながら農業体験の実施回数を増やす等して、参加者の自立を促していきたい。 ・初年度の農業体験等で作成した各ツールを次年度の活動に有効活用していく。 ・協働事業終了後も自主財源を確保する仕組みを構築し、本事業を継続していく。若者たち

が、段階的に自立できるようなシステムを維持しながら本事業を発展させていきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	産業振興部農水産課 平塚市農業委員会	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創出に向けて～	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	ひきこもりの若者への自立支援をしながら、人手不足の農業への新たな労働力・雇用の創出につなげることを目的としています。若者と農家の双方にメリットである事業を目指すことを、団体と確認しながら進めています。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	就農先となる農家との連絡調整や広報対応など、適切に実施できたと考えています。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	団体と頻繁に意見交換を行いながら、丁寧に農家との信頼関係を築いてきました。また、ひきこもりの若者の特性について、農業サイドに正しく理解してもらえるように努めました。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	「自立支援」と「農業の担い手確保」という、お互いの目的を理解し、対等な立場であることを共有しています。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	ひきこもりの若者の農業体験が実現し、その働きぶりについて農家から一定の評価が得られました。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 ぜんしん	担当課名	産業振興部農水産課 平塚市農業委員会事務局
事 業 名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ 就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創 出に向けて～		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事前準備や事後の振り返り等において「作業報告書」等を活用し、市の担当職員と団体スタッフが、丁寧に意見交換を行った。時に農家の方を交え、市、団体間で「十分な協議」を重ね、「目的共有」、「役割分担」について、共通の認識を持ちながら事業に取り組めた。

市の担当職員と団体スタッフは、予定していた役割分担のもとに互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。農家の方を交えたミーティングほか、市・団体が互いに「対等な立場」で意見交換を重ねながら、事業を進めている。

「相互評価や波及効果」については、協働事業として市職員から農業情勢等の指導等を受けながら事業を展開できたことで、農家の方ほか、関係各位と円滑なコミュニケーションが図れたものと振り返っている。それにより、体験者は安心して事業に参加できる等の効果が得られた。

また、農家の方々からも体験者の働きぶりについて一定の評価が得られており、事業の波及効果は、今後も期待できると考えている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的・目標の達成」については、事業提案書の〈成果目標値〉を概ね達成でき、農業体験の実施によって、一定の新たな労働力が得られた。また、体験者の中には実際に自立した者もあり、結果があらわれ始めている。

「費用対効果」については、農家の方々との信頼づくりには時間を要するが、体験者から就農者が輩出される基盤は、少しずつ整いつつある。今後は「雇用トライアル」を受け入れてくださる農家の方々との関係を築き、アルバイト等で就農に結びつく若者の輩出を目指す。

「受益者サービス」については、農家の方々から働きぶりについて「真剣に取り組んでくれて感心した」等、一定の評価が得られた。また、体験者のアンケート結果によると〈満足度(10段階申告)〉は、平均値で8.5点と判明した為、高評価を頂けたと見ている。更に、体験者は、「米づくりを1から体験できてとても貴重でした」、「今後も手伝い等の形で農業に参加できれば良いなと思いました」等の声もあり、一定の評価をいただけたと受け止めている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート →

B : 「相互」評価シート →

C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

「市民のメリット」については、若者は自立に向け、より実践的な体験ができ、就労も可能になった。また、農家・若者ともに、新たな労働力・雇用の創出に繋げることができたと振り返っている。

「団体のメリット」としては、事業実施に要する「職業体験」の場を確保できたこと。また、数多くの職業人と接する為、会話や対人訓練等の場を得ることができたことが挙げられる。

「市のメリット」については、若者の体験作業が、農業の新たな労働力に繋がったこと。また、本事業により、社会における農業の価値が向上したと考えている。更に、市内の相談機関等を訪ねても解決策を得られない当事者に対し、自立に向けて希望を与えることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後も農業体験等を実施するにあたって以下の対応策を検討している。

- ・ 団体と市双方の課題：
 - ① ライスセンターでの体験を継続しながら、新たに体験を受け入れてくれる農業法人や農家を発掘し、雇用や就農などに導くことができるように検討
 - ② 協働事業終了後、団体の自主的な事業の継続に向け、課題の洗い出しや運営方法の検討等、若者の雇用や就農が実現する仕組みづくりが必要。
- ・ 主として団体の課題：
 - ① 当事者への助言がしっかりとできるように農作業体験等の作業内容の理解を更に深める
 - ② 当該事業を支えるスタッフの増員と育成。
 - ③ 協働事業終了後も本事業を継続する為の資金等。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (■ 提案型 □ 提案型以外) □ 休止または終了
- 行政が単独で実施 □ 団体が単独で実施
- その他 ()

※ 実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 農家の方々や関連する諸機関と築き上げてきた関係性を更に強化しながら農業体験の実施回数を増やす等して、参加者の自立を促していく。
- ・ 初年度の農業体験等で作成した「達成度チェックシート」等の各ツールを次年度以降の活動においても有効活用していく。
- ・ 次年度は、ライスセンターを含め体験できるフィールドや作業の発掘に努めるとともに、行く末は、団体が自主的に本事業を継続して、農業の担い手不足という課題解決に資するような展開を狙い、事業の仕組みづくり等の検討を進めていく。